



第三者審査委員会

環境配慮商品eco!onの認定は、社内審査に加え専門家や有識者による第三者審査委員会にて審議していただいています。審査基準を満たした商品だけをeco!onとして販売しています。



審査会議



商品開発担当の説明



消費者から意見をいただいています



審査委員会

持続可能な暮らしで次世代へ繋ぐ

名古屋大学 情報文化学部環境学研究所教授 佐野 充

次世代へ今をリレーする私たちの役割は、持続可能な環境の中で暮らしを営むことではないでしょうか。私たちの今の暮らしが明日につながり、明日の時間では次世代の人たちが持続可能な環境の中で暮らし、そして、次世代の子どもたちが次の明日を暮らす。今以上の暮らしができる明日としていく、これが私たちに与えられた役目ではないでしょうか。環境配慮商品「eco!on」が、環境に配慮した日常生活を実感でき、持続可能な暮らし方につながり、次世代に今以上の暮らしができる明日を実現できるよう、皆さんと一緒に商品を作り、育て、暮らしに役立てたいと思います。「eco!on」商品を応援するとともに、「eco!on」商品が提案する暮らし方を消費者の皆さんにもっともっと知ってほしいと思います。

消費者力の形成

公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会 石崎美英

グローバル化、情報化等を背景に消費生活がより多様化・複雑化している現在、消費者力の形成が課題とされています。消費者力とは、商品や企業について情報を収集し、生活の安全や企業の社会的責任等への監視を伴った選択をする力であり、また「eco!on」のような環境配慮型商品を購入するなど、環境問題をはじめとする国内外の社会的な問題解決および価値創出に向けて行動する力のことです。

第三者審査委員として、「eco!on」の開発に関わる中で、ユニー株式会社が、消費者の視点を重視し、環境配慮型商品の開発・販売により、社会的な価値や心の豊かさも実現していることを実感しています。消費者も企業も、自らの幸福や利益のみを追求するのではなく、家族、地域、地球全体のよりよい生活や環境を意識し、主体的・能動的に行動していくことが求められています。その意味で「eco!on」商品の果たすべき役割は大きく、今後も環境配慮型商品の多様なラインナップを期待します。

エコブランド「eco!on (エコオン)」の定着

株式会社コボ 代表取締役社長 山村真一

「エコオン」をパソコンに打ち込んでみる、トップページに環境配慮型オリジナル商品「eco!on」がヒットする。これは、ユニー株式会社の環境配慮型商品でPB（プライベートブランド）、SB（ストアブランド）である。

商品アイテムは生活雑貨から食品まであり、その商品群はどんどん広がっていく。環境問題は、大学の研究機関等専門領域での話題が多く、生活目線からしっかり育て、発信されていく話題や議論は意外に少ない。これは、環境問題は空気や水や光のように具体的な形や色等、五感で表現することが難しいところにある。この難しい五感に商品イメージを表現する有力な力は「ブランド」である。私たちの身の周りには多くのブランド商品がある。飲料水やお茶、牛乳等にある「おーいお茶」や「おいしい牛乳」や「いろは・す」等五感に訴えるネーミングに重点を置いたブランド戦略もあるが、「eco!on」という親しみ易い音と響きで難しい環境テーマをブランド化するネーミングもなかなか好評であり、着実に広がり定着していきつつある。

この「eco!on」は、商品企画を行うバイヤーさんや学識経験者、消費者代表の方々も加えた第三者審査委員会において毎回熱い議論が交わされ決められていくことも素晴らしいシステムである。

企業の社会的責任（CSR）が世界の大きなニュースになることが多い近頃、環境問題に真正面から取り組むエコブランド「eco!on」がこのものづくりを得意とする中部地域から発信されていくことは実に素晴らしいことと思う。

FSC認証のeco!on学習帳

小学生が使う学習帳を、FSC認証された紙で作りました。FSCマークとは、1993年に創立されたNGO団体であるFSC (Forest Stewardship Council) 森林管理協議会が定めるマークです。「正しく管理された森林」の基準を決め、この基準を満たした木材や商品にFSCマークが表示されます。このマークの付いた商品を選ぶことで、森林保全に貢献できます。

ユニーでは、子ども環境学習でFSC認証を教え、ノートを紹介して、子どもたちが自分でノートを選ぶ時に思い出してもらえるようにしています。



eco!on学習帳の開発

地球環境を保護することにスポットを当て、開発した商品です。地球の未来を担う子どもたちに、自然の偉大さや森を守ることの大切さを知ってほしいと思っています。今回、eco!onに学習帳を加えた理由は、子どもたちに一番身近で毎日使用することで環境についての学びを深める商品にしたかったからです。



グループ商品企画部
バイヤー
佐藤 雄一

eco!on商品の開発

日常生活に欠かせない製品を、環境負荷の少ない安心・安全なものにすることでサステナブルな社会を築いていく第一歩にしたいと考え、「eco!on」商品を開発しています。お客様のニーズを考慮し、売れる「eco!on」の開発を目指し、次の商品開発につなげていけるように取り組んでいます。「eco!on」商品を通じて「ユニーの環境の考え方」や「環境への取り組み」をお客さまに伝え、ユニーの企業価値を上げるブランドにしていきたいと考えています。



グループ商品企画部
住関連当部長
菅野 誠一

